

保健所の 麻しん対策チェックリスト (ver.1)

新興再興感染症対策等健康危機管理推進事業班
(全国保健所長会協力事業、分担事業者:井澤智子)
2018年4月27日作成

<事前の準備>

- 麻疹発生時対応ガイドライン等の確認
- 管内市町村の麻しん予防接種率の確認
- 定期予防接種者への接種勧奨
- 管内医療機関への注意喚起
(最新の流行情報、流行地への旅行歴問診、届出、感染予防、職員のワクチン歴確認など)
- 保健所に対応する職員の麻しん抗体価の確認 (および必要に応じた予防接種の勧奨)
- 麻しん発生時の組織内連絡体制の確認

<発生時の対応>

- 発生届あるいは第一報を元に、対応が必要かどうかを決める。
麻しんとしての対応・調査が必要な場合は、現状と今後の感染拡大リスクの評価、対策を協議する (国立感染症研究所等の専門的支援の要請を含む)
- 麻しん発生時の連絡体制の確立 (休日・夜間を含む)
- 麻しん発生時の積極的疫学調査・健康観察体制の確立 (他保健所からの支援体制を含む)
- 検査・検体搬送体制についての確認 (医療機関、衛生研究所、保健所間で)
- 麻しん疑い患者発生時の診療医療機関の確保
- 関係機関との情報提供・情報共有体制
(関係機関の例: 医師会・医療機関、市町村、近隣保健所、消防など事例に応じて)
- 接触が起こった医療機関・企業・施設等との連携、感染拡大防止のための支援
- 住民への情報提供体制 (相談窓口の明確化、夜間休日体制、QAの活用など)
- 緊急ワクチン接種体制
(該当者がいる場合、必要に応じワクチン在庫状況確認、ワクチン確保、協力医療機関等)
- 接種状況の確認と副反応のモニタリング (緊急ワクチン接種実施の場合)
- プレス対応の準備、定時のブリーフィングの計画 (特に市型保健所の場合)
- 感染源となったケースへのフォロー (必要に応じて)
- アウトブレイク終息確認
(最終の接触者発生から4週間新たな麻しん患者が発生していないことを確認の後)
- 対応の評価

参考) 情報提供の例

- ・ 麻しん発生状況（個人特定につながらないように十分配慮必要）
- ・ 感染可能性のあったと思われる接触状況と、同時に安全情報
（ある施設において、感染のリスクがあるのはいつからいつまでで、それ以外の時間及びこれからの利用は安全であること）
- ・ 麻しんを疑う症状について
- ・ 感染しやすい年齢層（麻しん感受性者）、逆に感染する可能性が低い人はどんな人か
- ・ 麻しんが疑われる場合の受診の仕方
- ・ 相談窓口
- ・ 感染予防のための行動

★尚、麻しん患者と接触のあった施設名等の公表については明確な基準はなく、自治体内での判断に委ねられています。市型保健所などではプレス対応が必要になることもあり、リスクコミュニケーションの観点から何を公表するかについて事前に考えておくことも大切です。